



館 報

No.21



令和 8 年度



埼玉県立

さきたま史跡の博物館

目 次

1	設置の目的	1
2	沿革	1
3	埼玉県立史跡の博物館の使命	3
4	事業	4
5	組織	5
6	特別史跡埼玉古墳群保存活用協議会委員	5
7	予算	6
8	施設・設備の概要	10
9	さきたま風土記の丘～さきたま古墳公園の変遷～	13
10	令和7年度事業報告	14
11	令和8年度事業計画	21
12	入館者数等	27
13	展示解説・ボランティア活動等	31
14	関係刊行物	32
15	企画展等	36
16	利用案内	37



特別史跡埼玉古墳群 令和7年1月撮影



さきたま史跡の博物館 令和7年5月撮影

1 設置の目的

県名発祥の地「埼玉」は、延喜式内社前玉神社、石田三成による忍城水攻めの遺構である石田堤、忍藩主松平家の菩提寺天祥寺など、豊かな歴史遺産に恵まれている。古くから埼玉の地の象徴とされてきた埼玉古墳群は、5世紀後半から7世紀前半にかけて築造された大型前方後円墳が集中する日本有数の大古墳群である。昭和13年には国史跡に指定され、平成元年・同25年・同30年の追加指定を経て、令和2年には特別史跡に指定された（指定面積約27.7ha）。平成29年に認定された日本遺産「和装文化の足元を支え続ける足袋蔵のまち行田」の構成資産のひとつになっている。

昭和41年には、古墳群を中心とした広い区域を確保し、その環境を整備して古墳群のよりよい保存と一層の活用を図るため「さきたま風土記の丘」の建設工事に着手した。その建設計画の一環として古墳群等から出土した考古資料や郷土の民俗資料を保護・活用するため「さきたま資料館」を昭和44年に設置した。

平成16年度に県教育委員会では、県立博物館施設の再編整備計画を策定し、8つの博物館施設を専門分野別に4つのグループに再構築することとした。当館は、歴史資料館（現・嵐山史跡の博物館）とともに「史跡系博物館」グループと位置付けられた。古墳を中心とする史跡に関する資料と考古資料の収集、保管及び調査研究を行うとともに、その活用を図るための博物館と明確にされた。民俗資料の博物館（現・歴史と民俗の博物館）への移動作業や館内展示改装工事を行い、平成18年4月1日から「さきたま史跡の博物館」としてリニューアルオープンした。

2 沿革

- 昭和41年5月 用地買収開始
- 昭和42年4月 さきたま風土記の丘建設事業開始（昭和42～43年度継続事業）
 - 11月 二子山古墳周堀発掘調査
- 昭和43年8月 稲荷山古墳発掘調査
 - 11月 二子山古墳周堀復原整備事業終了
- 昭和44年3月 さきたま資料館落成
 - 10月 さきたま資料館開館
- 昭和45年3月 奥の山古墳周堀復原整備事業終了
- 昭和48年3月 民俗資料収蔵庫・ホール兼講堂落成
- 昭和50年2月 丸墓山古墳周堀復原整備事業終了
- 昭和51年3月 稲荷山古墳出土品一括県文化財に指定
 - 4月 さきたま古墳公園第1期供用開始（県道南側 93,000 m²）
 - 8月 博物館法による博物館登録（8月2日）
 - 11月 稲荷山古墳内堀復原整備事業終了
- 昭和52年9月 礼宮文仁親王殿下、紀宮清子内親王殿下御来館

昭和 53 年5月 浩宮徳仁親王殿下御来館
 9月 稲荷山古墳出土鉄剣金象嵌銘発見、公表
 昭和 55 年9月 収蔵展示棟落成
 11 月 収蔵展示棟開館、金錯銘鉄剣一般公開
 12 月 皇太子殿下・皇太子妃殿下行啓
 昭和 56 年6月 稲荷山古墳出土品一括重要文化財に指定
 昭和 58 年4月 「北武蔵の農具」重要有形民俗文化財に指定
 5月 天皇陛下行幸
 6月 稲荷山古墳出土品一括国宝に指定
 昭和 59 年3月 稲荷山古墳礫柳復原整備事業終了
 昭和 60 年3月 稲荷山古墳保存整備事業終了(昭和 57～59 年度事業)
 昭和 63 年3月 丸墓山古墳保存整備事業終了(昭和 60～63 年度事業)
 3月 行田市所有の古墳 6 基、県に譲与
 平成3年9月 移築民家(山崎家)曳家整備終了
 平成4年3月 瓦塚古墳保存整備事業終了(昭和 63 年～平成 3 年度事業)
 平成6年3月 県内古墳詳細分布調査事業終了(平成元～5 年度事業)
 平成9年3月 将軍山古墳保存整備事業終了(平成 3～8 年度事業)
 4月 将軍山古墳展示館開館
 平成 10 年 11 月 稲荷山古墳発掘調査 30 周年・金錯銘発見 20 周年記念事業開始
 平成 15 年9月 稲荷山古墳鉄剣発見 35 周年記念講演会
 平成 16 年7月 入館者数累計 500 万人突破
 平成 18 年3月 企画展示室改修工事竣工
 4月 行田県土整備事務所より古墳公園の委譲移管(235,000 ㎡)
 4月 さきたま史跡の博物館リニューアルオープン
 平成 19 年2月 「日本の歴史公園 100 選」に選定
 3月 稲荷山古墳前方部復原整備事業終了(平成 12～18 年度事業)史跡埼玉古墳群保存整備基本計画策定体験工房完成
 平成 20 年5月 行田県土整備事務所より公園用地拡張移管供用開始(5.7ha)
 平成 21 年3月 本館全体改修及び耐震補強工事竣工

10月 秋篠宮殿下、同妃殿下御来館

平成23年7月 行田県土整備事務所より公園用地拡張移管供用開始(55,000 m²)

平成24年5月 奥の山古墳周堀復原整備事業終了(平成21～24年度事業)

4月 行田県土整備事務所より公園用地拡張移管供用開始(641 m²)

平成26年3月 入館者累計600万人突破

平成29年3月 稻荷山古墳礫櫛陶板整備事業終了(平成26～28年度事業)

平成30年2月 将軍山古墳展示館改修工事竣工

4月 宮繕・公園事務所より公園用地拡張移管供用開始(1,098 m²)

平成31年2月 埼玉古墳群史跡指定80周年・稻荷山古墳発掘調査50周年・鉄剣銘文発見40周年記念講演会

3月 史跡埼玉古墳群保存活用計画策定

令和元年10月 宮繕・公園事務所より公園用地拡張移管供用開始(20,000 m²)

令和2年3月 特別史跡指定(3月10日付け官報告示)

令和4年3月 奥の山古墳周堀整備事業終了(平成31・令和元～3年度事業)

令和4年3月 特別史跡埼玉古墳群整備基本計画策定

令和5年4月 宮繕・公園事務所より公園用地拡張移管供用開始(24,260 m²)

令和6年3月 本館全体いきいき回復改修工事竣工

令和6年5月 入館者累計700万人突破

令和7年3月 国宝「武蔵埼玉稻荷山古墳出土品」展示ケース更新

3 埼玉県立史跡の博物館の使命

県立史跡の博物館は、特別史跡「埼玉古墳群」及び国指定史跡「比企城館跡群 菅谷館跡」の保存と整備・活用を図ることにより、県民に快適な歴史空間を提供する。

また、埼玉の考古資料の収集保管・調査研究・展示公開・普及啓発等を行い、県民の多様な学習意欲に応え、心豊かな県民意識の醸成と新たな文化の創造に寄与する。

【さきたま史跡の博物館】

さきたま史跡の博物館は、特別史跡「埼玉古墳群」及び国宝「武蔵埼玉稻荷山古墳出土品」をはじめとする貴重な文化財を将来にわたって確実に保存、管理し、その活用を図る。また、埼玉の歴史を彩る数々の史跡や遺跡、また関係する資料の収集・保管・調査研究を進めることを基本的使命とする。

(1) 埼玉古墳群の調査を進め、史跡整備を継続、推進するとともに、稻荷山古墳から出土した「金錯銘鉄剣」をはじめとする出土品を、安全に公開していく。

- (2) 9基の古墳を中心とした 42.0 万 m²の古墳公園を、来園者の方々が安心して利用いただけるよう維持・管理し、いにしへのロマンを感じてもらえる快適な史跡空間として提供していく。
- (3) 埼玉古墳群をはじめとする県内の史跡や遺跡、考古資料に関する総合的な博物館として、関係資料の収集、保管、調査、研究を進め、各市町村等と連携しながらその成果を企画展や講演会等で公開する。
- (4) 埼玉古墳群や館有資料などを、生涯学習や学校教育において広く活用する事業を積極的に展開する。
- (5) 史跡の博物館として、県内の史跡や遺跡の調査・保存・活用について、市町村等が実施する事業を支援する。

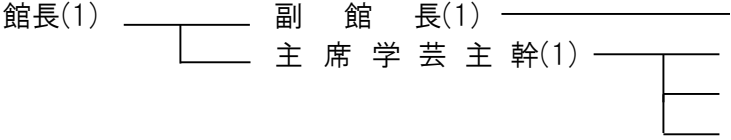
4 事業

当館は、目的達成のために次の事業を行う。

- (1) 埼玉古墳群を中心にその周辺から出土した考古資料の保管・展示を行う。
- (2) 考古資料に関する専門的かつ技術的な調査研究を行い、報告書、図録等を刊行する。
- (3) 考古資料に関する講演会、講習会、研究会等を開催する。
- (4) 埼玉古墳群の調査研究及び整備を行う。
- (5) さきたま古墳公園の管理を行う。
- (6) 埼玉古墳群や館有資料を、生涯学習や学校教育に生かす学習支援活動を行う。

5 組 織(令和8年5月現在)

(1) 組織表(職員 20 名、会計年度任用職員 4 名)



総務・公園管理担当(9)(会計年度任用職員 3 名を含む)
広報・学習支援担当(4)
資料・展示担当(5) (会計年度任用職員 1 名を含む)
史跡整備担当(3)

(2) 職員名簿

館 長	野 中 仁	(兼)	(広報・学習支援担当、資料・展示担当、史跡整備担当)
副 館 長	石 村 卓 也		主席学芸主幹 佐 藤 康 二
(総務・公園管理担当)			(広報・学習支援担当) 担当課長 鈴 木 康 弘
担当部長	金 子 雅 則		担当課長 増 田 翔 太
担当課長	関 根 啓 一		学 芸 員 中 井 歩
担当課長	塚 越 俊 之	(兼)	主 事 新 井 亮 平
主 任	篠 崎 梨 奈		(資料・展示担当) 学芸主幹 末 木 啓 介 (兼)
主 事	根 来 諒 太		主任専門員兼学芸員 村 田 章 人
主 事	嶋 田 寛 明		学 芸 員 白 石 明 香
会計年度任用職員	菰 原 潤 一 郎		学 芸 員 大 平 祐 実
会計年度任用職員	新 井 敏 夫		会計年度任用職員 岡 本 健 一
会計年度任用職員	青 木 重 二		(史跡整備担当) 学 芸 員 宮 原 正 樹
			学 芸 員 片 山 健 太 郎 (兼)
			学 芸 員 金 澤 明 里

※(兼)は、嵐山史跡の博物館との兼務職員

6 特別史跡埼玉古墳群保存活用協議会委員(50 音順 令和8年4月現在)

足 立 佳 代	(日本女子大学非常勤講師・考古学)	石 島 きく 江	(行田市文化財保護審議委員・地域代表)
井 上 尚 明	(立正大学非常勤講師・考古学)	高 久 健 二	(専修大学教授・考古学)
仁 藤 智 子	(国土館大学教授・古代史)	羽 生 冬 佳	(立教大学教授・観光学)
森 田 好 一	(元秩父県土整備事務所長・土木)	若 狹 徹	(明治大学教授・考古学)

7 予 算

(1) 令和 8 年度当初予算

ア 運営費関係

さきたま史跡の博物館管理費 31,928 千円

さきたま古墳公園管理費 125,159 千円

イ 特定事業費関係

特別史跡埼玉古墳群保存活用事業(国交付決定事業費) 77,157 千円

(2) 予算の推移

ア 建設費

(千円)

年 度	事 業	予 算
昭和 42～43	さきたま風土記の丘建設費(園路造成、古墳整備、資料館建設、周堀復原、民家移築等)	83,670
47	さきたま資料館増築費	50,000
54～55	さきたま資料館収蔵展示棟建設費	236,285
平成 5	さきたま資料館玄関ホール改修費	49,272
5～8	将軍山古墳展示館建設費	98,450
17	企画展示室改装工事	69,738
18	情報・体験学習室整備費	21,841
19	移築民家屋根等改修工事	15,176
20	本館全体改修及び耐震補強工事	170,207
29	将軍山古墳展示館改修工事	28,640
令和5	本館全体いきいき回復改修工事	361,458

イ 整備費

(千円)

年 度	事 業	予 算
昭和 42～53	さきたま古墳公園整備(奥の山古墳周堀復原、丸墓山古墳周堀復原、稻荷山古墳内堀復原、公園整備)	205,178
53	稻荷山古墳出土品保存処理	3,070
54	金錯銘鉄剣恒久保存処理	3,126
54～55	資料館整備費(鉄剣等展示ケース製作及びディスプレイ)	61,289
	金錯銘鉄剣レプリカ製作	9,741
54～58	さきたま古墳公園整備	192,443
57～59	埼玉古墳群保存整備(稻荷山古墳)	30,000
60～62	埼玉古墳群保存整備(丸墓山古墳)	30,000
昭和 63～平成 3	埼玉古墳群保存整備(瓦塚古墳)	41,104
平成 2	埼玉古墳群出土品複製(馬冑復原、水鳥埴輪レプリカ)	4,180
2～3	埼玉古墳群保存整備(二子山古墳)	6,240
3	埼玉古墳群保存整備(旧山崎家曳家整備)	10,273
3～8	埼玉古墳群保存整備(将軍山古墳)	290,727
9～18	埼玉古墳群保存整備(稻荷山古墳)	159,838
19	埼玉古墳群保存整備(奥の山古墳)	13,800
20	埼玉古墳群保存整備(奥の山古墳、範囲確認調査)	23,406
21	埼玉古墳群保存整備(奥の山古墳、範囲確認調査)	26,105
22	埼玉古墳群保存整備(奥の山古墳・鉄砲山古墳調査、周辺確認調査)	37,073
23	埼玉古墳群保存整備(奥の山古墳整備、鉄砲山古墳調査、周辺確認調査)	43,577
24	埼玉古墳群保存整備(奥の山古墳整備、鉄砲山古墳調査、周辺確認調査)	23,320
25	埼玉古墳群保存整備(奥の山古墳発掘調査整備報告書刊行、二子山古墳整備、二子山古墳・鉄砲山古墳調査、周辺確認調査)	29,642
26	埼玉古墳群保存整備(稻荷山古墳礫櫛模型改修、二子山古墳整備、鉄砲山古墳調査、補足調査)	26,769
27	埼玉古墳群保存整備(稻荷山古墳礫櫛模型改修、二子山古墳・鉄砲山古墳調査、補足調査)	23,622
28	埼玉古墳群保存整備(稻荷山古墳礫櫛模型改修、丸墓山古墳安全対策、二子山古墳、鉄砲山古墳調査)	15,809
29	埼玉古墳群保存整備(二子山古墳調査、丸墓山古墳安全対策、保存活用計画策定)	17,067

30	埼玉古墳群保存整備(二子山古墳調査、丸墓山古墳安全対策、奥の山古墳調査、保存活用計画策定)	13,878
令和元	埼玉古墳群保存整備(奥の山古墳整備、鉄砲山古墳調査報告書刊行)	11,736
2	埼玉古墳群保存整備(奥の山古墳整備、二子山古墳調査整理、整備基本計画策定)	10,772
3	埼玉古墳群保存整備(愛宕山古墳発掘調査、奥の山古墳整備、二子山古墳調査整理、整備基本計画策定)	12,629
4	埼玉古墳群保存整備(二子山古墳報告書刊行、奥の山・丸墓山古墳整備報告書刊行、案内・解説板整備)	11,054
5	埼玉古墳群保存整備(愛宕山古墳発掘調査、鉄砲山古墳整備、案内・解説板整備)	9,044
6	埼玉古墳群保存整備(愛宕山古墳発掘調査、鉄砲山古墳整備、案内・解説板整備)	14,355
6	国宝「武蔵埼玉稲荷山古墳出土品」展示ケース更新	99,458
7	埼玉古墳群保存整備(愛宕山古墳発掘調査・整理、鉄砲山古墳整備、案内・解説板整備、史跡用防犯カメラ設置)	44,332

ウ 発掘調査・報告書刊行費

(千円)

年 度	事 業	予 算
昭和 48	丸墓山古墳、稲荷山古墳周堀調査	3,163
49	天王山、梅塚古墳他周堀、二子山古墳外堀調査	3,628
54～56	稲荷山古墳発掘調査整理、報告書刊行、辛亥銘鉄剣修理報告書刊行	15,270
54～57	埼玉古墳群発掘調査	24,046
58～59	さきたま風土記の丘発掘調査	14,000
59	図録「北武蔵の農具」刊行	5,485
60～63	さきたま風土記の丘発掘調査	30,000
63	歴史の道調査	4,000
平成元～5	古墳詳細分布調査	19,199
8	将軍山古墳《史跡埼玉古墳群整備報告書》「確認調査」編・付編及び「保存・整備工事」編	3,246
18	稲荷山古墳発掘調査・保存整備事業報告書	1,650
25	奥の山古墳発掘調査・保存整備事業報告書	1,528
29	史跡埼玉古墳群総括報告書Ⅰ	1,128
30	稲荷山古墳礫槨模型設置事業報告書	240
令和元	鉄砲山古墳発掘調査報告書	1,320

令和4	二子山古墳発掘調査報告書	1,702
令和4	丸墓山古墳・奥の山古墳整備事業報告書	231

エ 管理運営費

(千円)

年度	平成 22	平成 23	平成 24	平成 25	平成 26	平成 27	平成 28	平成 29	平成 30
予算	90,308	110,192	104,032	103,941	111,671	110,555	110,937	112,422	116,110
	令和元	令和 2	令和 3	令和 4	令和 5	令和 6	令和 7	令和 8	
	120,193	132,122	136,705	126,895	148,329	243,131	132,676	157,087	

8 施設・設備の概要

(1) さきたま史跡の博物館

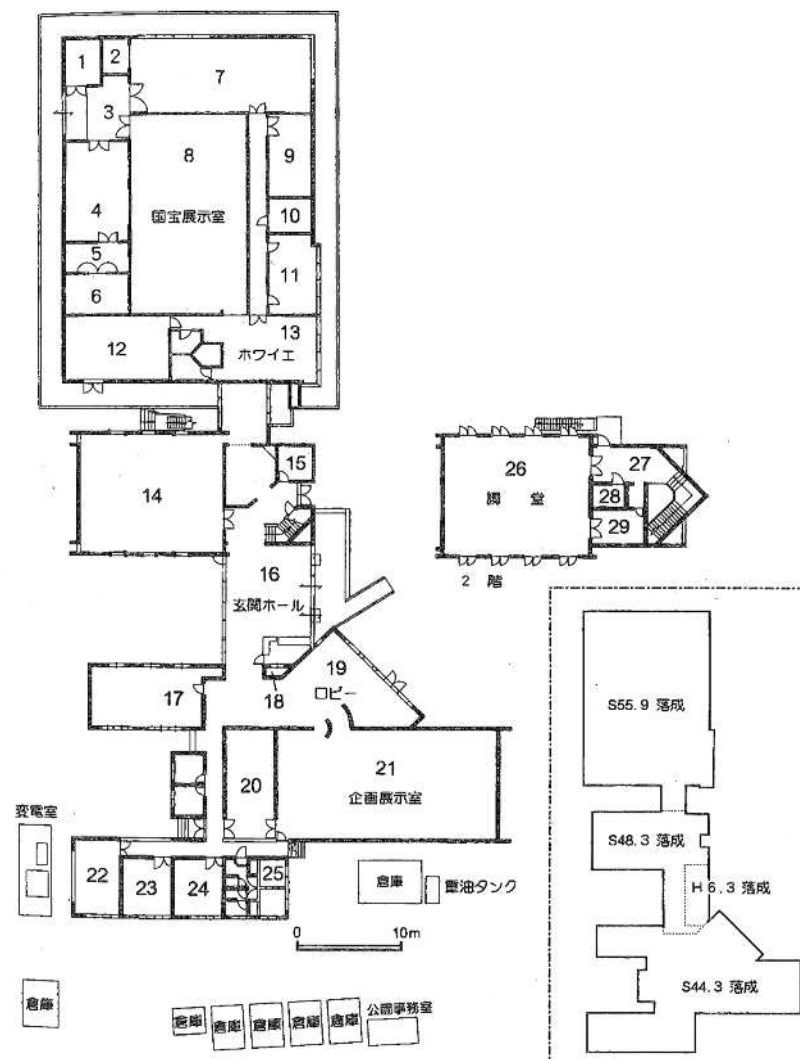
所在地 埼玉県行田市大字埼玉4834

敷地面積 42.0ha(古墳公園を含む)

建築面積 2,151.65 m²(本・新館 1,776.54 m² 移築民家 207.27 m² 機械室・車庫等 167.84 m²)

延床面積 2,386.58 m²(本・新館 2,011.47 m² 移築民家 207.27 m² 機械室・車庫等 167.84 m²)

構造 本館 鉄筋コンクリート造り 一部2階建て／移築



番号	室名	面積(m ²)	番号	室名	面積(m ²)
1	機械室 1	16.10	16	玄関ホール	96.02
2	倉庫 3	9.36	17	事務室	64.80
3	搬入荷解室	34.32	18	資料庫	2.88
4	考古資料収蔵庫	64.66	19	ロビー	119.60
5	前室	13.42	20	文書庫	51.84
6	特別収蔵庫	25.62	21	企画展示室	224.64
7	学芸室	124.10	22	ミーティング室	32.04
8	国宝展示室	214.50	23	図書室 1	27.36
9	図書室 2	33.16	24	館長室	23.36
10	保管庫	15.12	25	管理室	34.20
11	会議室	36.71	26	講堂	155.25
12	機械室 2	63.05	27	2階ロビー	22.02
13	ホワイエ	92.16	28	倉庫 2	7.68
14	その他	59.79	29	準備室	17.82
15	(新館計)	(802.07)		その他	162.76
	さきたま史跡の博物館	155.25		(本館計)	(1,209.40)
	倉庫 1	11.88		合計	2,011.47

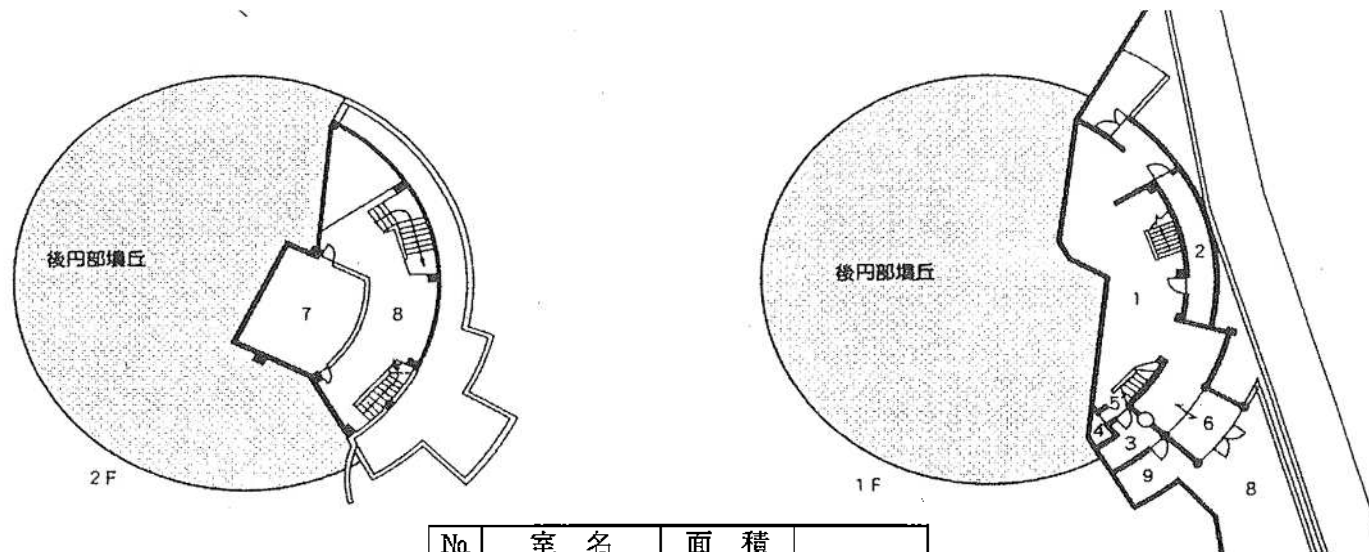
(2) 将軍山古墳展示館

所在地 埼玉県行田市大字埼玉159

建築面積 210.24 m²

延床面積 267.74 m²

構造 鉄筋コンクリート造り2階建て



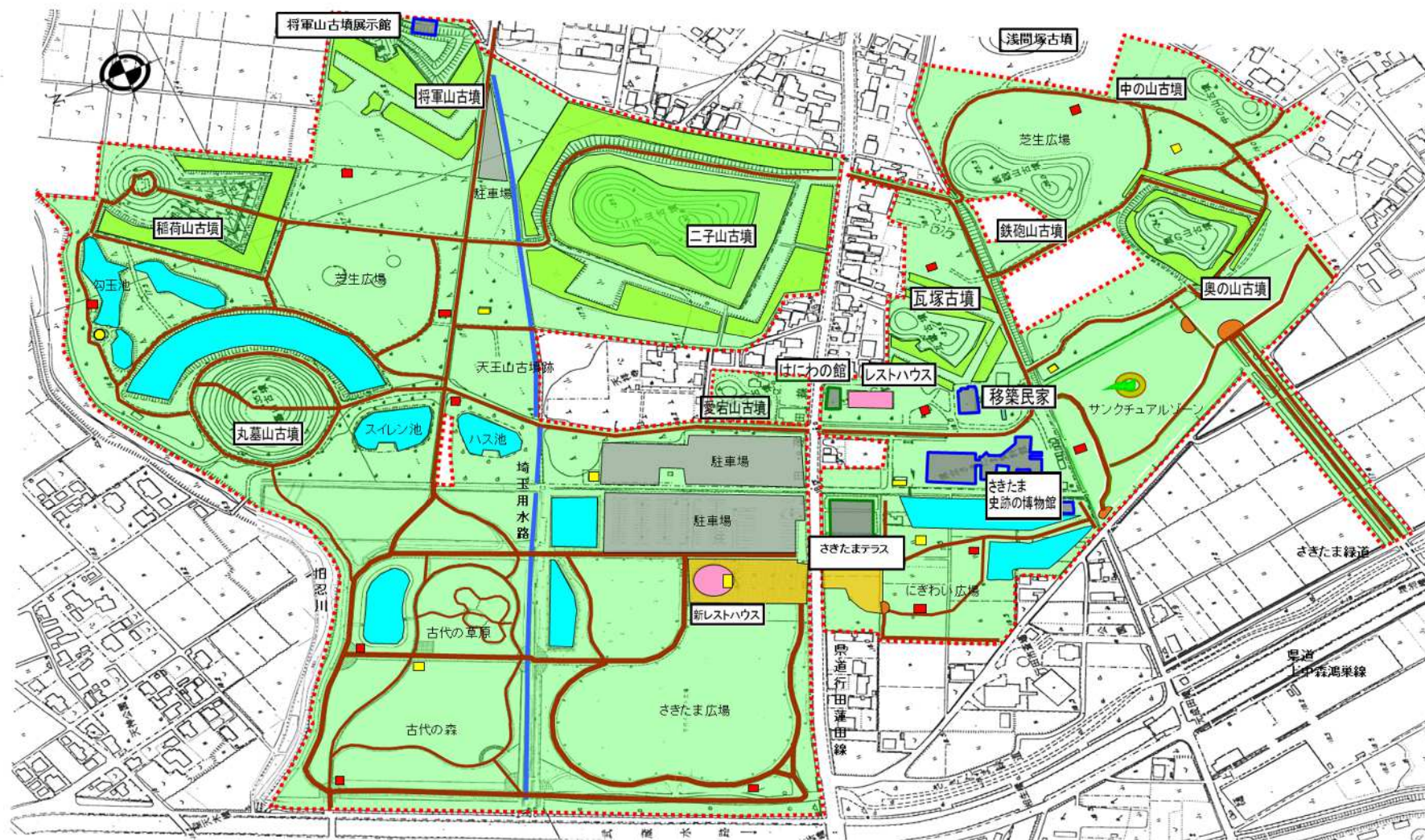
No.	室名	面積	
1	1 F展示室	109.36㎡	148.35㎡
2	倉庫	16.88㎡	
3	事務室	8.28㎡	
4	トイレ	1.35㎡	
5	前室	2.18㎡	
6	風除室	10.30㎡	119.39㎡
7	2 F展示室	74.47㎡	
	石室展示室	44.92㎡	
8	外構 ポーチ スロープ他	111.18㎡	121.48㎡
9	機械置場	10.30㎡	
		合計	389.22㎡

(3) 古墳公園内の主な施設

レストハウス…屋根付きのオープンスペースで、6人掛けテーブルが29脚と20脚の2か所がある。

はにわの館…行田市の外郭団体である(一社)行田おもてなし観光局が指定管理者として運営する施設で、「はにわづくり」の体験ができる。

観光物産館さきたまテラス…行田市の外郭団体である(一社)行田おもてなし観光局が指定管理者として運営する施設で、地場産品、軽食、カフェの販売をしている。



9 さきたま風土記の丘～さきたま古墳公園の変遷～

埼玉古墳群は、昭和13年8月8日に国の史跡に指定された。かつては小円墳等を含む古墳群であったが、明治から大正期の開墾によって小古墳の多くが失われ、指定範囲内には、現在8基の前方後円墳と1基の大型円墳が所在している。

昭和41年、埼玉県では、文化庁策定の「風土記の丘」建設構想に基づき、全国に先駆けて“ふるさと埼玉”のシンボルとして、埼玉古墳群を県直営の史跡公園「さきたま風土記の丘」とするため、建設計画を立て事業に着手した。さきたま風土記の丘建設計画は、用地買収・復原整備・環境整備・園路造成・資料館建設・展示資料整備を柱とするもので、県名発祥の地にふさわしい広域整備を目指したものであった。

昭和53年、稻荷山古墳から出土していた一振りの鉄剣から115文字の金錯銘文が発見され、学界のみならず国内外の注目を集めると、鉄剣を含む稻荷山古墳出土遺物は昭和58年に国宝に指定され、資料館を拡充して「国宝展示室」を新たに設置した。

その後、平成9年にはさらなる整備拡充を目指し、97ヘクタールの都市計画決定を行った。拡張区域については順次整備を進め、令和5年度末現在で、42.0ヘクタール（特別史跡指定面積は277,295.5㎡）が公園として整備され供用されている。

なお、従来は古墳部分については県教育委員会、その他の部分は県北部公園事務所（後に事務所の廃止に伴い、県行田県土整備事務所）が管理を担っていたが、平成18年度からは公園部分の維持管理が県都市整備部から県教育委員会に移管となり、古墳群を含めた公園全体の管理を当館で行っている。

整備が進められている拡張区域において、行田市による飲食物販施設の設置が計画される。これに伴い、令和4年8月1日付けで拡張区域のうち2,996.25㎡について都市整備部から移管され、供用を開始、併せて、行田市に対して使用許可を行った。

さらに、21,263.95㎡の移管を受け、令和5年4月1日に、にぎわい広場（24,000㎡）として供用を開始、行田市物販施設（観光物産館さきたまテラス）も同日開業した。



にぎわい広場



行田市飲食物販施設「観光物産館さきたまテラス」



10 令和7年度事業報告

(1) 展示事業

※令和8年2月20日から2月27日まで、国宝「武蔵埼玉稲荷山古墳出土品」展示ケース更新のための臨時休館により、国宝展示室及び企画展示室における展示事業は行っていない。金錯銘鉄剣についてはケース改修に伴い令和6年4月2日からレプリカを展示していたが、令和8年2月28日から実物を再展示した。

ア 常設展示

(a) 国宝展示室

国宝「武蔵埼玉稲荷山古墳出土品」を中心とした、埼玉古墳群出土品の展示のほか、埼玉県古墳文化を理解する上で必要な関係資料を展示した。



国宝展示室

(b) 将軍山古墳展示館

将軍山古墳頂上部分と中段に埴輪(復原模型)を並べ、築造当初の古墳の様子を復原するとともに、館内の横穴式石室内部に出土遺物(復原模型)を展示して、埋葬当時の様子を再現した。



将軍山古墳展示館 石室復元展示

(c) 通路パネル展

令和8年2月28日からホワイエ南側通路のパネル展示を最新の情報を加え更新した。

イ 企画展示

(a) テーマ展「小敷田遺跡—低地集落に生きた人びと—」

期間:4月1日(火)~5月25日(日) 49日:10,130人

内容:行田市と熊谷市にまたがる小敷田遺跡から出土した弥生時代から古代の土器や農耕などに関する木製品、出挙を示す木簡などの資料から、当時の人びとの暮らしについて考察した。



(b) 令和7年度「埼玉の考古おひろめ展—地中からのメッセージ」

期間:7月12日(土)~8月31日(日) 45日:9,609人

内容:令和7年度までの埼玉県内で行われた発掘調査出土品並びに整理作業を終了したもの、学術上注目される考古資料を中心に、関係市町村の協力を得て紹介した。



(c) 企画展「輝く武器・光る技ー古墳時代の飾り大刀」

期間:10月4日(土)~11月24日(月・祝) 47日:9,021人

内容:身分や権力を示す象徴的な武器であり、当時の最先端の技術が結集された工芸品でもある古墳時代の飾り大刀を通して、古墳時代の「匠の技」の素晴らしさや当時の為政者の姿を紹介した。



(d) 令和7年度ほるたま展「古代のものづくり」(公財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団主催

期間:12月13日(土)~2月1日(日) 40日:3,838人

内容:飛鳥時代~平安時代の土師器や瓦などの窯業関連遺物、製鉄・鍛冶関連の遺物、製糸・紡織に関する遺物を展示した。



(e) テーマ展 考古遺物ー守り伝える技術ー

期間:2月28日(土)~3月31日(火) 27日:6,360人

内容:金錯銘鉄剣に関する資料や県内の考古遺物を通して、埼玉県の考古遺物保存の歩みと金錯銘鉄剣がどのように受け継がれてきたのかを紹介した。



ウ ギャラリー展「埼玉古墳群と濱梨花枝」

期間:10月4日(土)~3月31日(火)

内容:さいたま文学館の企画展と連携し、歌人濱梨花枝が作品に詠んだ昭和の埼玉古墳群やさきたま風土記の丘を写真で紹介した。

(2) 調査研究事業

史跡に関する資料、その他の考古資料の調査研究を行った。特に、埼玉古墳群とその周辺の古墳時代の実態を明らかにするための調査研究を行った。それらの成果を紀要第18号にまとめ、刊行した。

(3) 資料の調査・収集・整理・保管事業

ア 資料の収集

埼玉古墳群及び県内の史跡等に関する資料を収集した。

イ 資料の保管・管理

国宝「武蔵埼玉稻荷山古墳出土品」等の保存・保管のため、収蔵庫・展示室等の有害生物管理及び資料点検等を行った。

また、下記の期間に館内で有害生物防除を行った。

実施期間：6月10日(火)～11日(水)

(将軍山古墳展示館は10日(火)～13日(金)に実施)



職員による清掃



将軍山古墳展示館2階展示の様子

利用方法	資料貸出	フィルム貸出	撮影	写真等の転載	熟覧その他	特別利用申請件数
R7件数	29	175	28	0	50	225

(4) 特別史跡埼玉古墳群保存活用事業

ア 保存

愛宕山古墳では調査研究、将来の整備に向けて、令和3年度より継続的に発掘調査を実施している。

最終年度となった令和7年度の調査では、墳丘東側の構造、裾の位置、内堀、中堤、外堀の状況が明らかとなった。内堀から円筒埴輪、人物や鳥、馬などの形象埴輪がまとまって出土した。

2月14日(土)には調査成果を広く公開するため発掘調査現地見学会を開催し、209名が参加した。



愛宕山古墳発掘調査の様子



愛宕山古墳発掘調査現地見学会

イ 整備

令和5年度から事業を進めている鉄砲山古墳では、基本設計・実施設計に基づき、現地での工事に着手した。第1期工事では、整備範囲の樹木伐採・剪定、既存史跡標柱等の移設、新規誘導サインの設置を行った。案内・解説板整備事業では、4か年目として誘導サイン3基を製作、うち1基(瓦塚古墳南側)を設置した。令和5年1月の二子山古墳毀損(無断掘削)を受けて、史跡監視用防犯カメラを3基(二子山古墳西側、丸墓山古墳北側・南側)に設置した。



鉄砲山古墳第1期整備工事後



鉄砲山古墳整備工事(史跡標識移設)



案内・解説板整備工事(誘導サイン)



史跡監視用防犯カメラ設置工事

ウ 活用

令和7年度特別史跡埼玉古墳群シンポジウム「埼玉古墳群と古代国家成立前夜」を10月18日(土)に行田市教育委員会との共催で開催し、県内を中心に356人が参加した。将軍山古墳以降の埼玉古墳群と埼玉古墳群での古墳造営終了後の北武蔵の動向をテーマとし、最新の調査研究成果から古墳から古代寺院への展開について考えた。

関 義則(元埼玉県立歴史と民俗の博物館長) 基調講演「古墳時代後・終末期の埼玉古墳群と北武蔵」

篠田 泰輔(行田市郷土博物館) 講演「後・終末期の埼玉古墳群周辺の古墳群と遺跡」

神 啓崇(福岡市経済観光文化局文化財活用部史跡整備活用課) 講演「馬具からみた将軍山古墳の歴史的意義」

青笹 基史(埼玉県教育局教育総務部文化財・博物館課) 講演「古墳時代終末期以降の選択的受容と地域社会」

宇高 美友子(埼玉県立さきたま史跡の博物館) 講演「北武蔵の寺院造営動向」

宮原 正樹(埼玉県立さきたま史跡の博物館) 紙上報告「旧盛徳寺跡出土の瓦について」



会場の様子



基調講演 関義則氏



講演 宇高学芸員



討論

エ 特別史跡埼玉古墳群保存活用協議会

※令和7年度より「特別史跡埼玉古墳群保存活用協議会」に名称変更

古墳群の発掘調査や整備事業に当たり、特別史跡埼玉古墳群保存活用協議会を6月15日(日)、1月27日(火)※＝、分科会を2月5日(木)に開催し、有識者及び地元代表の委員から意見を聴取した。また、文化庁文化財調査官からも事業内容について指導を受けた。



第1回会議



第1回会議鉄砲山古墳現地視察



第2回会議愛宕山古墳現地視察



文化庁視察

(5) 広報・学習支援事業

ア さきたま古代体験

「まが玉づくり」……………4月2日(火)～3月31日(日)【6,339人】
 「古代人に変身」……………5月3日(土・祝)【67人】
 「火おこしに挑戦」……………4月29日(火・祝)【132人】
 「自分の好きな色にまが玉を染めよう」……………6月7日(土)【20人】 9月6日(土)【31人】 12月6日(土)【34人】 2月7日(土)【22人】
 「オリジナル埴輪を作ろう！」……………8月8日(金)【22人】 8月9日(土)【33人】 2月11日(水・祝)【61人】
 「古代の布を作ろう」……………7月25日(金)【15人】 8月20日(水)【9人】 12月20日(日)【7人】
 「大人のための着装体験～古代衣装で博物館見学しませんか～」……………10月25日(土)【10人】



「古代人に変身」



「火おこしに挑戦」



「色染めまが玉体験」



「古代の布を作ろう」

イ 古墳群ガイドツアー……………4月19日(土)【15人】 6月21日(土)【18人】 10月11日(土)【23人】 11月1日(土)【14人】 1月17日(土)【14人】

ウ キッズ古墳群ガイドツアー……………5月5日(月・祝)【46人】 3月7日(土)【17人】



「古墳群ガイドツアー」



「キッズ古墳群ガイドツアー」



エ 企画展解説 ……………10月12日(日)【26人】 10月26日(日)【2人】 11月9日(日)【11人】 11月23日(日)【22人】

- オ おひろめ展解説……………7月13日(日)【11人】 7月27日(日)【13人】 8月10日(日)【4人】 8月24日(日)【8人】
- カ テーマ展解説……………5月4日(日)【4人】 5月25日(日)【5人】
- キ さきたま講座
 5月3日(土)「埼玉の古墳時代の始まり ～小敷田遺跡出土の土器から考える～」 佐藤 康二 (当館主席学芸主幹)【45人】
 8月23日(土)「埼玉県の埴輪-埼玉の考古おひろめ展の資料を中心に-」 大谷 徹 氏 (立正大学博物館学芸員)【54人】
 11月15日(土)「古墳時代の飾り大刀」 講師 瀧瀬 芳之 (当館学芸員)【64人】
 1月24日(土)「板碑・石塔の3D考古学 -3D計測による調査・研究の最前線-」 講師 本間 岳人 氏 (立正大学 文学部史学科 准教授)【51人】
 3月21日(土)「考古遺物の保存-水漬け木器から金錯銘鉄剣まで-」 講師 野中 仁(当館館長)【55人】
- ク 学芸員の仕事にチャレンジ！(小・中学生対象)……………5月10日(土)【39人】 7月19日(土)【30人】 1月31日(土)【30人】 1月27日(土)【30人】
- ケ 中高生のための博物館仕事体験(中学生・高校生対象)……………8月2日(土)【14人】



「学芸員の仕事にチャレンジ！」



「中高生のための博物館仕事体験」



- コ 県民の日記念行事……………さきたま秋祭り「火おこしに挑戦」【115 人】「スペシャルまが玉作り体験」【117 人】
 「学芸員による企画展展示解説」【55人】「埼玉古墳群ガイドツアー」【61人】



「スペシャルまが玉作り体験」



「学芸員による企画展展示解説」



「スペシャル古墳群ガイドツアー」

サ 出前授業

「なるほど！古墳時代」〈近隣5市他〉……………6月4日(木)～9月9日(火)【29校 1,021人】
「作ってみよう！わたしだけのオリジナルまが玉」……………5月15日(水)～2月19日(水)【11校 476人】※公民館等を含む
「作ってみよう！わたしだけのオリジナルはにわ」……………4月30日(水)～3月6日(金)【9校 208人】※公民館等を含む
「古墳時代へタイムスリップ！」……………5月15日(木)～11月18日(火)【7校 316人】
「さきたま史跡の博物館のお仕事」……………12月5日(金)、12月19日(金)【2校 51人】
「残していこう大切な文化財～埼玉古墳群」(オンライン授業)……………7月15日(火)～12月17日(水)【12校 1,105人】



「なるほど！古墳時代」



「まが玉作り体験」



「はにわ作り体験」



「オンライン授業」

シ 実習・研修会・報告会・見学会

県政出前講座……………9月16日(火)【18人】 9月30日(火)【14人】 11月20日(木)【32人】
博物館実習……………7月15日(火)～29日(金)【7人】
埼玉県小学校中堅教諭等資質向上研修(教科指導)……………7月28日(月)【23人】
埼玉県中学校初任者研修(教科指導)……………11月27日(木)【50人】
教員のための博物館の日……………8月6日(水)【5人】
中学生職場体験実習……………9月17日(水)～19日(金)【2人】
報告会・見学会……………8月3日(日)遺跡発掘調査報告会【120人】 10月18日(土)シンポジウム「埼玉古墳群と古代国家成立前夜」【356人】
2月14日(土)愛宕山古墳発掘現地見学会【209人】

11 令和8年度事業計画

埼玉古墳群、関連資料及び県内の考古資料の展示などを行い、利用者の郷土埼玉に対する一層の理解を深めると共に、古墳群の歴史的意義の解明と特別史跡「埼玉古墳群」の保存と活用に努める。

(1) 展示事業

ア 常設展示

(a) 国宝展示室

国宝「武蔵埼玉稲荷山古墳出土品」を中心として、埼玉古墳群とその周辺の出土品の展示のほか、埼玉県古墳文化を理解する上で必要な収蔵品等の関係資料を展示する。

(b) 将軍山古墳展示館

将軍山古墳頂上部分と中段に埴輪(復原模型)を並べ、築造当初の古墳の様子を復原するとともに、館内の横穴式石室内部に出土遺物(復原模型)を展示して、埋葬当時の様子を再現する。

イ 企画展示

(a) テーマ展 考古遺物—守り伝える技術—

期間:4月1日(水)～5月24日(日)

内容:金錯銘鉄剣に関する資料や県内の考古遺物を通して、埼玉県の考古遺物保存の歩みと金錯銘鉄剣がどのように受け継がれてきたのかを紹介する。

(b) 令和8年度「埼玉の考古おひろめ展—地中からのメッセージ」

期間:令和8年7月11日(土)～8月30日(日)

内容:県内で発掘調査された遺跡の最新の成果や話題となった発掘資料を紹介する。

(c) 企画展「ヲワケの生きた時代—5世紀の北武蔵—」

期間:令和8年10月3日(土)～11月23日(月・祝)

内容:稲荷山古墳は、5世紀後半に埼玉古墳群で最初に築造された前方後円墳である。今回の展示では、稲荷山古墳築造前後の5世紀の北武蔵にスポットを当て、金錯銘鉄剣にその名が刻まれた「ヲワケ」が生きた時代を、さまざまな遺構や遺物から紹介する。

(d) 令和8年度ほるたま展

期間:令和8年12月12日(土)～1月31日(日)

内容:公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が発掘調査した県内の遺跡から出土した遺物の中から優品を紹介する。

(e) テーマ展 埼玉の遺跡「縄文時代」(仮)

期間:令和9年2月28日(土)~3月31日(火)

内容:埼玉県内の縄文時代の特徴ある遺跡や出土品を紹介する。

ウ ギャラリー展示(パネル展示)

埼玉古墳群の調査成果、展示に関連した内容等について紹介する。

(2) 調査研究事業

ア 古代歴史文化協議会 共同研究「古墳時代の地域間交流」の推進

当館では古代歴史文化協議会(加盟県 埼玉・和歌山・岡山・鳥取・島根・佐賀・宮崎)の中で、調査・研究を推進する。また、令和9年度以降に当館の研究成果を企画展等にて公開する。

イ 紀要の刊行

職員の調査・研究成果や体験学習事業等の報告を所収した埼玉県立史跡の博物館紀要第19号を刊行する。

(3) 資料の調査・収集・整理・保管事業

ア 資料の収集

埼玉古墳群及び県内の史跡等に関する資料を収集する。

イ 資料の保管・管理

・国宝「武蔵埼玉稻荷山古墳出土品」等の保存・保管のため、収蔵庫・展示室等の有害生物生息状況調査及び有害生物防除を行う。

※6月9日(火)~10日(水)に薬剤による消毒作業を実施する。

(4) 特別史跡埼玉古墳群保存活用事業

ア 保存

愛宕山古墳について令和3年度から令和7年度の発掘調査成果をまとめた報告書刊行に向けて整理作業を実施する。二子山古墳の再整備のための基礎情報を得るため中堤及び外堀の発掘調査を行う。発掘調査の様子や状況等を一般向けに広く公開するために古墳の発掘調査見学会を開催する。また、発掘調査の進捗は適宜、博物館ホームページまたは公式SNS等で公開する。

イ 整備

特別史跡埼玉古墳群整備基本計画に基づき、鉄砲山古墳の周堀復元整備工事、案内・解説板整備工事を進める。

ウ 活用

「特別史跡埼玉古墳群シンポジウム」を開催し、最新の調査研究について公開する。

エ 特別史跡埼玉古墳群保存活用協議会の開催

有識者からなる協議会を年2回開催し、発掘調査や古墳の整備方法等について、指導、助言を得る。

オ 特別史跡の保全・点検

古墳群の適切な保存管理のため、特に立入禁止区域の墳丘について定期的に巡回・点検を実施する。また、史跡巡視用の防犯カメラを新たに設置する。

(5) 広報・学習支援事業

ア さきたま古代体験

「まが玉づくり」……………4月2日(木)～3月31日(水)
「火おこしを学ぼう」……………4月29日(水・祝)
「古代人に変身」……………5月3日(日・祝)
「大人のための着装体験」……………10月24日(土)
「まが玉色染め体験」……………8月23日(日)、12月26日(土)、2月23日(日)
「オリジナル埴輪を作ろう」……………7月25日(土)、2月11日(木・祝)
「古代の布を作ろう」……………7月25日(土)、2月11日(木・祝)
「学芸員の仕事にチャレンジ！」……………11月28日(土)、1月30日(土)
「中高生のための博物館仕事体験」……………8月7日(土)

イ 古墳群ガイドツアー

埼玉古墳群ガイドツアー……………4月25日(土)、6月6日(土)、10月3日(土)、1月16日(土)
キッズ古墳群ガイドツアー……………5月5日(火・祝)・3月13日(土)
古典の日記念事業「万葉歌碑を巡る」……………11月1日(日)

ウ テーマ展解説……………4月12日(日)、4月26日(日)、5月2日(土)、5月23日(土)

エ おひろめ展解説……………7月12日(日)、8月9日(日)、8月23日(日)、8月30日(日)

オ 企画展解説……………10月11日(日)、10月25日(日)、11月8日(日)、11月22日(日)

- カ さきたま講座……………①5月30日(土)、②8月22日(土)、③10月31日(土)、④1月23日(土)、⑤3月6日(土)
- キ 実習・研修会・報告会・見学会
 博物館実習……………7月14日(火)～17日(金)、7月22日(水)～24日(金)
 遺跡発掘調査報告会……………7月26日(日)
 教員のための博物館の日……………8月5日(水)
- ク 行田古墳フェスティバル……………10月18日(日)
- ケ シンポジウム……………10月17日(土)
- コ 県民の日無料入館デー(さきたま秋祭り)……………11月14日(土)
- サ 出前授業(原則小学4年生以上対象)
 「なるほど！古墳時代～古墳時代の出土物について調べよう～」(国宝「金錯銘鉄剣」を中心資料とした古墳時代に関する授業)〈小学6年生対象〉
 「オリジナルまが玉作り～けずって作ろう！わたしのまが玉～」(まが玉づくり体験授業)
 「オリジナルはにわ作り～輪積みで作ろう！わたしのはにわ～」(埴輪づくり体験授業)
 「古墳時代へタイムスリップ！」(古墳時代を中心とした歴史学習)
 オンライン「残していこう大切な文化財～埼玉古墳群～」(埼玉古墳群を中心とした小学生向け郷土学習)
 「さきたま史跡の博物館のお仕事」(学芸員の仕事を中心としたキャリア教育学習)
- シ さきたま体験工房
 「まが玉づくり(通年)」などの「体験コーナー」
 図書・タブレットを使った考古学・文化財などの学習ができる「さきたま情報コーナー」などを活用した事業を実施する。

(6) ボランティアの育成

体験学習や講座等の運営、国宝展示室の解説、環境整備などの支援能力を高めるためにボランティア研修や意見交換会を実施し、積極的なボランティアの活用を図る。

- ア ボランティア委嘱状交付式及び研修会…4月15日(水)
- イ ボランティア定例会及び研修会(年3回程度実施)

(7) 関係団体との連携等

- ア 埼玉県博物館連絡協議会への加盟
- イ 関東地区博物館協会への加盟
- ウ 日本博物館協会への加盟
- エ 県政出前講座
- オ 全国風土記の丘協議会への加盟
- カ その他関係団体・民間企業との連携

(8) 管理運営事業

- ア 博物館施設の充実
古墳群の環境整備、博物館の整備・充実を進め、博物館、将軍山古墳展示館の積極的な活用を行う。
- イ 臨時休館日 予定日程
本館及び将軍山古墳展示館：6月9日(火)・10日(水)（有害生物防除作業）
- ウ 公園施設の維持・管理
公園施設の適正な維持・管理を行うとともに、安全で安心な公園環境づくりに努め、県民に快適な歴史空間の場を提供する。

(9) 「博学連携」を意識した学校教育との連携強化

- ア 「主体的・対話的で深い学びの実現」「体験活動」を重視した出前授業の実施
児童生徒の学習意欲を高める教材提供の工夫や、児童生徒が対話によって思考を深める問題解決場面を設定した授業を実施する。
- イ 児童生徒の思考を促す博学連携教材の開発
さきたま史跡の博物館ならではの教材を開発し、授業での利用の方法とともに県内小中学校に提案する。
- ウ 職場体験事業の受け入れと児童生徒作品の展示
中学校職場体験事業において、中学生の館内実習を行う。また、行田特別支援学校の児童生徒の作品を館内に一定期間展示する。

(10) 地域教育機関・民間とのネットワークによる事業展開

ア 地域の教育機関との連携事業

県立総合教育センターや県内自治体、地元団体と連携し、埼玉古墳群を活用した事業を展開する。

イ 地域の民間団体との連携事業

10月18日(日)の行田古墳フェスティバルを中心に、地域の民間NPO団体等と協力し、埼玉古墳群の一層のアピールを行うとともに地域との連携を強化する。

12 入館者数等

(1) 令和7年度の状況

月別入館者数一覧

月			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
開館日数			26	28	23	28	28	26	28	28	24	25	25	26	315
本館 有料 入館 者数	個人	一般	3,720	3,816	1,695	2,347	2,844	2,196	2,620	3,039	1,359	1,714	1,566	4,525	31,441
		学生等	103	150	63	93	186	84	63	67	67	56	59	221	1,212
	団体	一般	87	231	379	1,236	830	104	280	263	112	20	122	285	3,949
		学生等	0	5	24	17	34	0	0	0	0	0	0	27	107
	年間券	一般	2	3	1	2	4	0	6	6	3	1	1	4	33
		学生等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
小 計			3,912	4,205	2,162	3,695	3,898	2,384	2,969	3,375	1,541	1,791	1,748	5,063	36,743
共通券入館者			2,356	2,542	1,187	1,901	2,007	1,505	1,714	2,814	1,005	1,237	914	2,941	22,123
無料入館者		小学生	1,005	1,993	3,350	2,506	1,337	1,203	2,079	1,112	466	576	580	835	17,042
		中学生	89	247	80	179	324	147	204	129	37	45	273	211	1,965
		その他	960	974	1,020	1,021	1,038	669	942	934	371	483	372	894	9,678
		小計	2,054	3,214	4,450	3,706	2,699	2,019	3,225	2,175	874	1,104	1,225	1,940	28,685
入館者総計			8,322	9,961	7,799	9,302	8,604	5,908	7,908	8,364	3,420	4,132	3,887	9,944	87,551

小・中学校団体見学数地域別一覧

	地 域	さいたま	南部	西部	北部	東部	県内計	東京	神奈川	千葉	静岡	栃木	茨城	群馬	県外計	合 計
小学校	学校数	2	5	5	3	10	25	66	5	0	2	5	0	4	82	107
	人 数	193	613	232	175	575	1,788	3,346	513	0	58	214	0	217	4,348	6,136
中学校	学校数	1	1	1	0	1	4	2	0	0	0	0	0	0	2	6
	人 数	30	12	60	0	138	240	52	0	0	0	0	0	0	52	292
その他	学校数	1	1	2	0	3	7	7	3	1	0	0	0	0	11	18
	人 数	8	83	52	0	81	224	187	20	10	0	0	0	0	217	441

※その他は、「高等学校」「大学」「特別支援学校」「保育園」等。 ※人数は、引率者含む。

(2) 年度別入館者数内訳

年 度		昭和44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57
開館日数		120	295	297	296	294	292	295	294	294	296	288	284	281	291
個 人	一般	3,660	9,759	9,220	10,862	11,771	13,418	12,254	13,196	16,152	42,657	46,589	50,916	49,050	45,052
	学生等	2,837	5,975	5,774	5,930	7,071	7,152	6,354	6,839	8,016	16,236	18,566	19,733	17,611	17,537
団 体	一般	2,499	3,881	4,610	5,466	4,440	5,830	4,755	4,905	6,088	13,644	19,944	15,556	18,348	15,191
	学生等	962	1,604	3,637	3,897	3,372	4,771	3,733	4,294	4,953	6,770	11,319	8,629	9,869	10,685
小 計		9,958	21,219	23,241	26,155	26,654	31,171	27,096	29,234	35,209	79,307	96,418	94,834	94,878	88,465
共通券		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
無料入館者		8,853	21,907	27,949	38,372	45,698	56,347	54,842	57,020	74,277	99,729	107,636	89,025	110,371	112,165
入館者総計		18,811	43,126	51,190	64,527	72,352	87,518	81,938	86,254	109,486	179,036	204,054	183,859	205,249	200,630

年 度		58	59	60	61	62	63	平成元	2	3	4	5	6	7	8
開館日数		292	293	294	293	295	290	291	293	293	292	291	291	294	293
個 人	一般	45,352	41,648	42,416	45,705	44,059	42,593	45,506	46,744	46,693	45,060	41,463	35,379	33,062	33,462
	学生等	17,487	16,251	16,619	17,330	15,650	14,097	14,302	13,726	12,760	12,042	10,967	8,862	1,655	1,869
団 体	一般	15,083	12,643	11,086	10,860	11,528	13,851	9,093	9,190	7,294	8,763	5,091	3,578	3,097	2,336
	学生等	5,793	5,021	3,808	3,864	2,967	4,199	2,485	2,047	1,554	1,214	956	803	437	178
小 計		83,715	75,563	73,929	77,759	74,204	74,740	71,386	71,707	68,301	67,079	58,477	48,622	38,251	37,845
共通券		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
無料入館者		126,704	122,557	105,125	106,308	99,920	87,847	94,920	93,298	97,334	90,342	86,141	87,144	102,377	114,978
入館者総計		210,419	198,120	179,054	184,067	174,124	162,587	166,306	165,005	165,635	157,421	144,618	135,766	140,628	152,823

年 度		9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
開館日数		294	293	293	296	298	298	297	298	301	312	316	313	314	311
個人	一般	43,637	34,378	29,992	26,173	26,449	25,928	27,915	23,123	23,415	22,633	20,496	27,866	26,577	23,323
	学生等	1,842	1,558	1,314	1,199	1,292	1,083	1,169	1,007	862	1,213	991	1,004	1,005	1,008
団体	一般	2,153	2,631	2,035	2,279	2,341	1,758	1,858	1,346	1,184	1,795	1,364	1,272	1,330	2,931
	学生等	316	165	250	142	99	205	41	41	127	51	16	196	96	26
小 計		47,948	38,732	33,591	29,793	30,181	28,974	30,983	25,517	25,588	25,692	22,867	30,338	29,008	27,288
共通券		18,671	15,134	13,594	12,085	13,081	12,698	12,236	10,993	12,060	11,774	10,204	15,670	14,253	12,256
無料入館者		149,682	113,405	104,683	90,284	84,215	73,800	75,653	62,250	64,604	67,539	66,966	65,347	68,570	61,923
入館者総計		216,301	167,271	151,868	132,162	127,477	115,472	118,872	98,760	102,252	105,005	100,037	111,355	111,831	101,467

年 度		23	24	25	26	27	28	29	30	令和元	2	3	4	5	6
開館日数		313	314	313	314	313	313	313	315	287	186	314	314	315	315
個人	一般	21,247	25,161	29,544	31,837	33,129	34,170	31,139	29,942	29,523	19,917	31,847	30,989	21,528	31,562
	学生等	885	1,068	987	1,212	1,228	1,160	1,064	979	889	634	1,174	1,183	812	1,207
団体	一般	3,693	3,362	7,246	7,953	7,680	8,136	7,327	6,365	8,270	673	2,167	2,799	3,040	3,125
	学生等	162	107	87	81	154	74	81	93	115	8	5	78	105	30
小 計		25,987	29,698	37,864	41,083	42,191	43,540	39,611	37,379	38,797	21,232	35,193	35,049	25,485	35,924
共通券		11,919	14,716	18,587	21,158	22,159	23,702	18,921	24,045	23,901	12,158	22,939	21,828	10,283	22,470
無料入館者		54,037	69,276	54,554	51,476	50,937	55,128	49,081	49,019	45,104	20,292	37,961	40,383	22,847	30,702
入館者総計		91,943	113,690	111,005	113,717	115,287	122,370	107,613	110,443	107,802	53,682	96,093	97,260	58,615	89,140

年 度		7	累 計
開館日数		315	16,800
個 人	一般	31,441	1,738,579
	学生等	1,212	351,489
団 体	一般	3,949	350,712
	学生等	107	116,879
小 計		36,709	2,557,659
共通券		22,123	475,618
無料入館者		28,685	4,127,589
入館者総計		87,551	7,160,944

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和 2 年 2 月 29 日(土)から令和 2 年 5 月 31 日(日)まで、令和 2 年 12 月 24 日(木)から令和 3 年 3 月 21 日(日)まで臨時休館

13 団体解説・ボランティア活動等(令和7年度)

			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
団体解説	一般	団体数	0	2	2	2	2	1	1	8	1	1	2	4	26
		人数	0	53	49	70	73	49	30	233	40	8	32	136	773
	学校	団体数	1	4	6	5	0	2	5	2	1	0	2	2	30
		人数	124	123	309	254	0	73	417	46	31	0	59	96	1,532
工房利用者		工房利用者数	781	1144	1148	872	714	563	905	471	270	302	235	551	7,956
		学校まが玉	80	228	441	90	0	233	0	86	0	0	167	0	1,325
		一般まが玉	284	540	126	300	772	205	170	326	98	191	163	154	3,329
		合計	1145	1912	1715	1262	1486	1001	1075	883	368	493	565	705	12,708
レファレンス件数			20	25	7	10	10	11	13	20	6	7	8	25	162
ボランティア		学習支援	19	47	52	49	63	49	45	40	38	39	37	36	514
		展示解説	0	47	48	52	48	46	46	42	42	42	30	48	491
		環境整備	15	24	18	24	17	16	20	30	15	16	0	0	195
		合計	34	118	118	125	128	111	111	112	95	97	67	84	1,200

14 関係刊行物

「資料館報」No.1(昭和 45 年)～No.36(平成 17 年)	
「調査研究報告」第 1 号(昭和 63 年)～第 19 号(平成 17 年)	
「さきたま古墳群とその周辺」	(昭和 51 年 3 月)
「さきたま民俗暦」	(昭和 52 年 3 月)
「稻荷山古墳出土鉄剣金象嵌銘概報」	(昭和 54 年 2 月)
「八幡山古墳石室復原報告書」	(昭和 55 年 3 月)
「埼玉稲荷山古墳」	(昭和 55 年 11 月)
「埼玉稲荷山古墳辛亥銘鉄剣修理報告書」	(昭和 57 年 3 月)
「北武蔵の農具」	(昭和 60 年 1 月)
「埼玉古墳群発掘調査報告書第二集 鉄砲山古墳」	(昭和 60 年 3 月)
「埼玉古墳群発掘調査報告書第三集 愛宕山古墳」	(昭和 60 年 3 月)
「史跡埼玉古墳群保存修理事業報告書 稲荷山古墳」	(昭和 60 年 3 月)
「埼玉古墳群発掘調査報告書第四集 瓦塚古墳」	(昭和 61 年 3 月)
展示ガイド「さきたま古墳群と北武蔵の農具」	(昭和 61 年 3 月)
絵はがき「稲荷山古墳」	(昭和 61 年 3 月)
「歴史の道 調査報告書第七集 荒川の水運」	(昭和 62 年 3 月)
「歴史の道 調査報告書第八集 新河岸川の水運」	(昭和 62 年 3 月)
「埼玉古墳群発掘調査報告書第五集 二子山古墳」	(昭和 62 年 3 月)
「歴史の道 調査報告書第九集 入間川の水運」	(昭和 63 年 3 月)
「埼玉古墳群発掘調査報告書第六集 丸墓山古墳・埼玉 1～7 号墳・将軍山古墳」	(昭和 63 年 3 月)
88 さいたま博覧会協賛特別展図録「はにわ人の世界」	(昭和 63 年 3 月)
第4回国民文化祭 さいたま 89 協賛特別展図録「さきたま古墳群とその時代」	(平成元年 10 月)
「歴史の道 調査報告書第十集 利根川の水運」	(平成元年 3 月)
「埼玉古墳群発掘調査報告書第七集 奥の山古墳・瓦塚古墳・中の山古墳」	(平成元年 3 月)

第1回さいたま芸術文化祭協賛 さきたま風土記の丘企画展展示 解説書「古墳の年代をはかる 一須恵器一」	(平成2年10月)
第2回さいたま芸術文化祭協賛 さきたま風土記の丘企画展展示 解説書「くらしの中の神々」	(平成3年10月)
「埼玉古墳群発掘調査報告書第八集 二子山古墳・瓦塚古墳」	(平成4年3月)
展示ガイド「さきたまの古墳」	(平成4年3月)
第3回さいたま芸術文化祭協賛 さきたま風土記の丘企画展展示 解説書「さきたま将軍山古墳と銅鏡」	(平成4年10月)
彩の国元年 さいたま芸術文化祭協賛 さきたま風土記の丘企画展展示 解説書「キツネは踊る～お米がたくさんとれますように～」	(平成5年9月)
「埼玉県古墳詳細分布調査報告書」	(平成6年3月)
展示ガイド「さきたまの古墳と民俗」	(平成7年3月)
将軍山古墳 《史跡埼玉古墳群整備事業報告書》「確認調査編・付編」及び「保存・整備工事編」	(平成9年3月)
将軍山古墳整備事業完成記念企画展図録 「古墳時代の馬の装い 一さきたまに馬がやってきた！一」	(平成9年10月)
ガイドブック「さきたま」	(平成10年3月)
稲荷山古墳発掘調査30周年・金錯銘発見20周年記念事業特別展 図録「古代金石文と倭の五王の時代」	(平成10年10月)
稲荷山古墳発掘調査30周年・金錯銘発見20周年記念事業特別展 シンポジウム資料「ここまでわかった！稲荷山古墳」	(平成10年11月)
特別展図録「吉見の百穴と東日本の横穴墓」	(平成19年1月)
武蔵埼玉稲荷山古墳発掘調査・保存整備事業報告書	(平成19年3月)
史跡埼玉古墳群保存整備基本計画	(平成19年3月)
図録「「稲荷山」出現以前の古墳」	(平成22年3月)
図録「祈りとまじないの考古学」	(平成22年10月)
図録「スローフードの考古学 ～生活を支えた食と生業～」	(平成23年10月)
図録「原始・古代の職人集団」	(平成24年9月)
図録「古代の豪族～将軍山古墳とその時代～」	(平成25年9月)
シンポジウム資料集「埼玉古墳群の謎～東国をおさめた古代豪族～」	(平成26年1月)
「史跡埼玉古墳群奥の山古墳発掘調査・保存整備事業報告書」	(平成26年3月)
図録「ハニワの世界」	(平成26年9月)
図録「古墳の終焉と律令時代の幕開け」	(平成27年9月)

図録「埼玉の古墳1 一比企・入間」	(平成 28 年 9 月)
図録「埼玉の古墳2 一秩父・児玉・大里」	(平成 29 年 9 月)
「史跡埼玉古墳群 総括報告書Ⅰ」	(平成 30 年 1 月)
図録「埼玉の古墳3 一北足立・北埼玉・南埼玉・北葛飾」	(平成 30 年 9 月)
「史跡埼玉古墳群 稻荷山古墳礫櫛模型設置事業報告書」	(平成 31 年 1 月)
記念講演会資料集「さきたま あれから これから」	(平成 31 年 2 月)
「史跡埼玉古墳群保存活用計画」	(平成 31 年 3 月)
図録「徹底解剖！埼玉古墳群」	(令和元年 9 月)
「特別史跡埼玉古墳群 鉄砲山古墳発掘調査報告書」	(令和 2 年 3 月)
特別史跡指定記念式典・シンポジウム資料集「埼玉古墳群 史跡から特別史跡へ」	(令和 2 年 3 月)
指定記念限定ガイドブック「特別史跡埼玉古墳群」	(令和 2 年 3 月)
図録「盾持人埴輪の世界」	(令和 2 年 9 月)
報告書刊行記念シンポジウム資料集「鉄砲山古墳を掘る」	(令和 2 年 11 月)
「特別史跡 埼玉古墳群ガイドブック」	(令和 3 年 2 月)
図録「運ぶ一埼玉古墳群とモノの動き」	(令和 3 年 7 月)
企画展開連シンポジウム資料集「埼玉古墳群とモノの動き」	(令和 3 年 9 月)
「特別史跡埼玉古墳群整備基本計画」	(令和 4 年 3 月)
図録「家形埴輪」	(令和 4 年 10 月)
「特別史跡 埼玉古墳群ガイドブック」第2版	(令和 4 年 12 月)
令和4年度シンポジウム「特別史跡埼玉古墳群のこれから」	(令和 5 年 3 月)
「特別史跡埼玉古墳群 二子山古墳発掘調査報告書」	(令和 5 年 3 月)
図録「二子山古墳と祈りの器」	(令和 5 年 7 月)
特別史跡埼玉古墳群シンポジウム「6世紀の東国史と埼玉二子山古墳―最新成果から描く継体朝前後の東日本―」	(令和 5 年 11 月)
「特別史跡 埼玉古墳群ガイドブック」第3版	(令和 6 年 7 月)
図録「古墳時代の装い 一おしゃれな古代人」	(令和 6 年 10 月)

「特別史跡 埼玉古墳群ガイドブック」第4版

(令和7年9月)

図録「輝く武器・光る技—古墳時代の飾り大刀—」

(令和7年10月)

「館報」No.1(平成18年)～No.21(令和8年)

「埼玉県立史跡の博物館紀要」創刊号(平成18年)～第19号(令和8年)

15 企画展等

企画展「吉見の百穴と東日本の横穴墓」

(平成18年度)

最新出土品展、企画展「考古学で学ぶ動物とのかかわり」

(平成19年度)

最新出土品展、企画展「古墳時代の優品」

(平成20年度)

最新出土品展、企画展「稻荷山出現以前の古墳」

(平成21年度)

最新出土品展、企画展「祈りとまじないの考古学」、テーマ展「さきたまのハニワたち」

(平成22年度)

最新出土品展、企画展「スローフードの考古学」、テーマ展「埼玉・あの遺跡この遺跡」

(平成23年度)

最新出土品展、企画展「原始古代の職人集団」、テーマ展「埼玉の原始・古代」

(平成24年度)

最新出土品展、企画展「古代の豪族」、テーマ展「形と文様」

(平成25年度)

最新出土品展、企画展「ハニワの世界」、テーマ展「縄文の不思議な世界」

(平成26年度)

最新出土品展、企画展「古墳の終焉と律令時代の幕開け」、新収蔵品展「～旧長瀬総合博物館からの寄贈資料～」

(平成27年度)

最新出土品展、企画展「埼玉の古墳1—比企・入間—」、テーマ展「弥生の空間—実りと祈り—」

(平成28年度)

最新出土品展、企画展「埼玉の古墳2—秩父・児玉・大里—」、テーマ展「律令国家がやってきた！」

(平成29年度)

最新出土品展、企画展「埼玉の古墳3—北足立・北埼玉・南埼玉・北葛飾—」、テーマ展「埼玉の平安—兵の目覚め—」

(平成30年度)

最新出土品展、企画展「徹底解剖！埼玉古墳群」、テーマ展「埼玉の中・近世—発掘された道沿いの風景—」

(令和元年度)

最新出土品展、企画展「盾持人埴輪の世界」

(令和2年度)

最新出土品展、企画展「運ぶ—埼玉古墳群とモノの動き」、テーマ展「埼玉の遺跡 鴻巣市新屋敷遺跡—埴輪工人の奥津城—」

(令和3年度)

埼玉の考古おひろめ展、企画展「家形埴輪」、テーマ展「埼玉の遺跡 東松山市反町遺跡—時代を彩る職人のムラ—」

(令和4年度)

企画展「二子山古墳と祈りの器」

(令和5年度)

スペシャルテーマ展「埼玉古墳群と日本遺産」、埼玉の考古おひろめ展、企画展「古墳時代の装い ―おしゃれな古代人―」、テーマ展「埼玉の遺跡 小敷田遺跡 ―低地集落に生きた人びと―」	(令和 6 年度)
埼玉の考古おひろめ展、企画展「輝く武器・光る技―古墳時代の飾り大刀―」、テーマ展「考古遺物―守り伝える技術―」	(令和 7 年度)

16 利用案内

(1) 博物館関係

ア 開館時間

- (ア) 下記以外は、午前 9 時～午後 4 時 30 分。(入館受付は、午後 4 時まで。)
- (イ) 7 月 1 日～8 月 31 日は、午前 9 時～午後 5 時。(入館受付は、午後 4 時 30 分まで。)

イ 休館日

- (ア) 月曜日(その日が国民の祝日、振替休日、県民の日又は 4 月 29 日～5 月 5 日である場合を除く。)
- (イ) 年末年始(12 月 29 日～1 月 3 日)

ウ 観覧料等

(ア) 観覧料(本館及び将軍山古墳展示館共通)

区 分	個 人	団体(20 人以上)	年間観覧券
一 般	200 円	1 人につき 120 円	1,200 円
学生・生徒(高校生)	100 円	1 人につき 60 円	600 円

- ※ 義務教育終了前の方は、無料
- ※ 身体障害者手帳等をお持ちの方及びその介護者(障害者 1 人につき 1 人)は、無料
- ※ 教育課程に基づく学習活動として観覧(幼稚園、保育所を含む。)する学生・生徒・引率者及び下見見学者は、無料
- ※ 調査を目的として観覧する方及び研修会の引率者は、無料
- ※ 埼玉県(教育委員会を含む。)が主催する職員対象の研修会等の参加者は、無料
- ※ 年間観覧券で、県立嵐山史跡の博物館にも入館できる

(イ) 特別利用料金

熟 覧	1 点 1 日につき	1,250 円	模写・模造	1 点 1 日につき	2,500 円
撮 影	1 点カットにつき	4,180 円	原版使用	1 点につき	3,130 円

- ※ びょうぶは、1 隻を 1 点、一揃いをなす卷子は、1 巻を 1 点、掛軸は、一幅を 1 点とし、その他の資料は、各個を 1 点とする。
- ※ 国・県・市町村等が主催する文化、教育に係わる事業等の場合は、免除又は減額となる。

(2) 公園施設関係(5 ページ図参照)

埼玉県都市公園条例等により、次のとおり定められている。

ア 利用手続

「物品の販売、興業その他の営業行為」、「業として写真又は映画等を撮影」等の行為については、埼玉県都市公園条例第 9 条第 1 項により、知事の許可が必要である。

なお、公園内は、文化庁から史跡に指定されており、穴を掘る行為や表土を傷付ける行為はできない。

イ 利用料金(入場料又はこれに類するものを徴収しない場合)

物品の販売その他の営業行為をする場合	1 m ²	半日	7 円	1 日	14 円
興行を行う場合	1 m ²	半日	8 円	1 日	17 円
業として写真を撮影する場合	1 件	半日	360 円	1 日	740 円
業として映画等の撮影を行う場合	1 件	半日	14,800 円	1 日	29,800 円

※ 埼玉県都市公園に関する規則別表第 1 の抜粋

(3) 交通案内

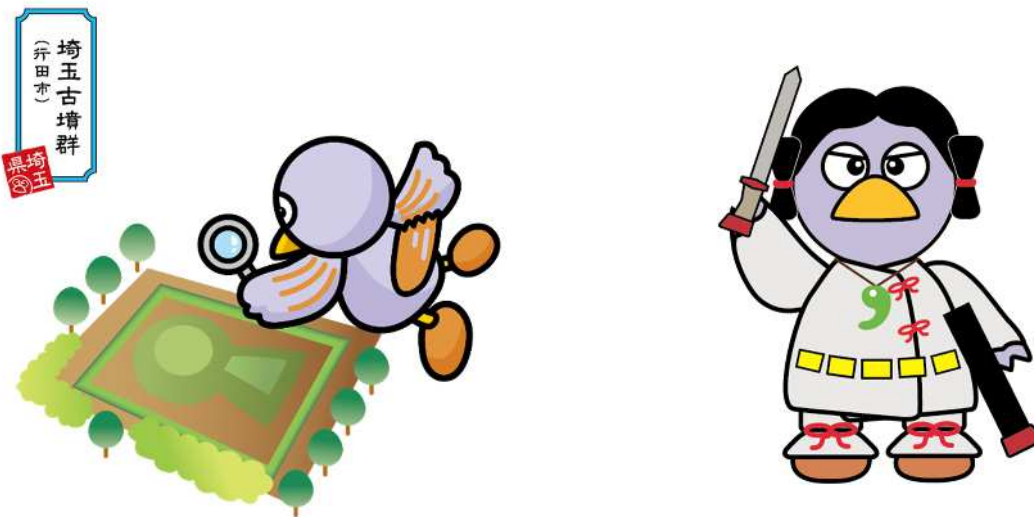
ア JR 高崎線「吹上」駅下車、朝日バス「佐間経由行田折返し場・総合教育センター・工業団地」行きに乗車、「産業道路」下車、徒歩 15 分

イ 秩父鉄道「行田市」駅下車、「新町1丁目」から朝日バス「佐間経由吹上駅」行きに乗車、「産業道路」下車、徒歩15分

ウ JR 高崎線「行田」駅下車、市内循環バス(1 日 9 便「観光拠点循環コース」)「JR 行田駅前」から「埼玉古墳公園」下車、徒歩 2 分

エ JR 高崎線「北鴻巣」駅下車、さきたま緑道 4.8 km





埼玉県のマスコット コバトン

館 報 第21号
令和8年7月1日刊行

埼玉県立さきたま史跡の博物館

〒361-0025 埼玉県行田市埼玉4834

TEL 048-559-1111(総務)

048-559-1181(学芸)

FAX 048-559-1112

<https://www.sakitama-muse.spec.ed.jp>

E-mail:k591111@pref.saitama.lg.jp